

最上小国川清流未来ニュース

令和3年1月20日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第21号

特集 最上小国川流域の振興に向けた取り組み

下の図は、平成27年4月に策定した「最上小国川清流未来振興計画」です。この計画に基づいて、現在、様々な取り組みが進んでいます。

最上小国川清流未来ニュースでは、こうした取り組みの動きについて、毎号、ご紹介していきます。

今回は、その中から5つの取り組みについてご紹介します。

※アユは最上小国川全川で放流



- 凡例
- 印：地域の将来像を実現するための施策
 - 印・番号なし：全域、全川が対象の施策
 - ◎印：複数箇所を実施する施策の代表箇所

- 清流を守り・育て・活かす
目標：アユの放流量と漁獲量50%増を目指す。
- **アユ等の放流** ← 裏面で紹介
 - 1 アユ放流事業への支援
 - 2 水源井戸の整備
 - 3 アユ中間育成とサケのふ化場の併用施設整備
 - 4 サケふ化施設の遊休期間を活用したアユ種苗生産の増大
 - 5 中間育成技術の継承と人材確保・育成
 - 6 環境モニタリング
 - 7 魚道改修・修繕の検討・実施 (一部完成)
 - 8 河川工事における環境対策
 - 9 計画的な保安林の指定
 - 10 水辺林、溪畔林の整備
 - 11 合併浄化槽の整備
 - 農薬等の低減
 - 間伐材の搬出・主伐後の再造林
 - 河道・森林整備の促進
 - **アユの生息に配慮した河道整備** ← 裏面で紹介



先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川

- 川を知り 川に親しむ
目標：中学生以下の最上小国川のイベント参加者数年間8,000人を目指す。
- 1 アユ釣り大会の開催
 - 2 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
 - 3 イワナ、サクラマス等の産卵場造成
 - 4 遊漁券の販売促進
 - 5 **ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用促進** ← 裏面で紹介
 - 6 釣り場のアクセス改善
 - 7 最上小国川鮎釣り甲子園大会の開催
 - イベントの連携協定 ← 裏面で紹介

- 治水や治山で 自然と共存する
目標：50年に1度の洪水を安全に流せるようにする。
- 1 **最上小国川流水型ダム整備** ← 裏面で紹介
 - 2 河川整備 (長沢・舟形地内)
 - 3 河川整備 (大堀地内) ← 裏面で紹介
 - 4 **赤倉地区内水対策 (一部完成)**
 - 5 **河川情報の提供 (ライブカメラ設置)**
 - 6 河川環境の創出 (赤倉地区)
 - 河川の効果的な維持管理
 - 防災意識向上の推進 ← 裏面で紹介
 - **水位等の河川情報の提供** ← 裏面で紹介
 - 克雪対策の推進
 - 河床低下防止と河川施設の保護

- おもてなしの 心で癒す
目標：地域の観光客数150万人を目指す。
- 1 物販及び情報発信施設新設の検討
 - 2 流水型ダム周辺整備
 - 3 月楯橋・満沢橋付近での駐車場と進入路の整備
 - 4 遊歩道の整備
 - 5 **共同浴場とふかし湯の整備**
 - 6 歴史的な赤倉温泉街の継承・発展
 - 7 温泉地等の魅力向上の推進
 - 8 「川の駅」でのイベント開催
 - 9 親水空間創出の推進 (向町)
 - 10 親水空間創出の推進 (舟形)
 - 11 親水空間創出の推進 (瀬見)
 - 川床の茶屋設置方策の検討
 - イベントの連携検討

○印：令和元年度まで完了



共同浴場とふかし湯の整備 (せみの湯) 最上町 瀬見



アユ中間施設育成とサケふ化場の併用施設整備 舟形町 舟形

- 地元ブランドで活性化する
目標：雇用の確保につながるブランド品の創出3品目をを目指す。
- 6次産業化の推進 (アユ加工品等の開発支援)
 - 地域ブランド商品の開発
 - 木質バイオマスの利活用の推進



最上小国川流水型ダム



ダムカード春から配布再開

令和2年4月より運用を開始した最上小国川流水型ダムでは、ダムカードを令和2年11月1日から赤倉温泉「おくのほそ道湯けむり館」にて希望者へ配布し、令和2年の配布終了(12/7)までの約ひと月で244枚を配布しました。

冬期は配布を休止しており、令和3年の4月下旬から配布を再開する予定です。

●最上総合支庁河川砂防課：0233-29-1406



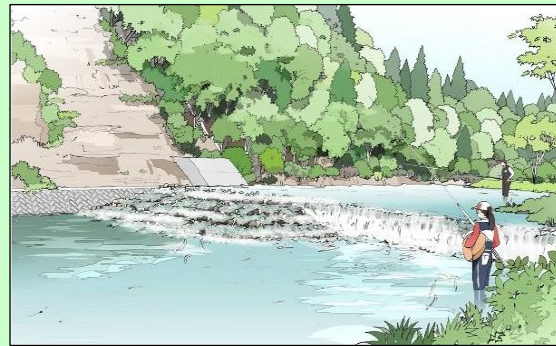
アユの生息に配慮した河道整備の推進

最上小国川には過去に整備した取水堰や帯工の下流側などで河床が低下し段差ができています。そのため、魚が川をさかのぼる障害になっています。そのため、魚の生息に配慮し、流域全体で魚釣りができるように、魚の遡上に配慮した緩傾斜式の落差工や魚道を整備します。

令和3年度以降に小国川漁業協同組合や町などの関係機関と連携しながら、設計を行い工事を実施していきます。

●最上総合支庁河川砂防課：0233-29-1406

整備イメージ（案）



水位等の河川情報の提供

「山形県河川・砂防情報システム」は、県内各地の雨量情報や水位情報等を収集・管理し、県内の防災関係機関にリアルタイムに情報を提供するものです。また、インターネットや携帯電話で情報を把握することもでき、自主的な避難情報として、一般県民の皆様にも広く活用いただいております。

最上小国川流水型ダムの運用開始に合わせ、昨年5月からは、同ダムの一般向け情報（貯水位・監視カメラ画像など）の提供を開始しておりますので、是非ご利用下さい。

●山形県河川課：023-630-2611



ライブカメラ画像例
(最上小国川流水型ダム下流)

主な配信内容

予警報情報	■ 気象予警報	■ 洪水予報	■ 避難判断水位超過情報
観測情報	■ 水防警報	■ 土砂災害警戒情報（共同発表）	
土砂災害警戒情報	■ 雨量情報	■ 水位情報	■ ダム情報
	■ 土砂災害警戒情報	■ 映像情報	

QRコード



(スマートフォン版) (携帯電話版)

サクラマス等の放流

小国川漁業協同組合では、県の魚である「サクラマス」を知ってもらいサクラマス資源の増大を図るとともに、漁場環境保全の重要性についての学びと故郷の美しい自然に触れる事を目的として、流域の子供たちの放流体験学習を実施しています。

6月22日に、小国川の支流である絹出川において、向町小学校3年生50名とサクラマス稚魚放流体験学習を行い、子供たちはバケツに入った稚魚（合計8,000尾）を大事そうに放流していました。



また、7月22日にはイワナの放流体験も実施しており、同じく小国川支流の杉の入沢川において、向町小学校2年生48名と計5,000尾の稚魚を放流しました。未来につなげていくために、今後もこの取り組みを続けていきます。

●小国川漁業協同組合：0233-32-2892



ドライブスルー方式で焼き鮎販売

毎年9月に開催してきた「ふながた若鮎まつり」が、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

それでも、舟形町の特産である鮎を多くの皆さんに味わってほしいという思いから、安全を確保しつつ、9月5日・6日にアユパークを会場に、完全予約制のドライブスルー方式で焼き鮎の販売が行われました。県内外から多数の予約があり、2日間で合わせて3,000尾を超える鮎が販売されました。



当日は残暑厳しい中、舟形町振興公社と舟形町の職員が、マスクの着用や密を避けるなどの新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、焼きたての鮎を手渡し、受け取った来場者は自宅などで秋の味覚を存分に堪能したようです。

ふながた若鮎まつりは、次回40回目の節目を迎えます。来年度、再び開催できる情勢になるよう新型コロナウイルス感染症の終息を願いながら、準備が進められています。

●舟形町まちづくり課：0233-32-2111、舟形町振興公社



【お問い合わせ先】

最上小国川清流未来振興機構（最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：0233-29-1240

【最上小国川清流未来振興機構のホームページ】

<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>

※ ホームページでも、施策の取り組み状況や流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧下さい。



QRコード